LIVE REVIEW

海原純子 東京・銀座"Swing", 4月18日(日)

Set List 1st:①イット・マイト・アズ・ウェル・ビー・スプリング ②エヴリシング・ハプンズ・トゥ・ミー ③ギヴ・ミー・ザ・シンプル・ライフ ④ゼン・アンド・ナウ ⑤アンリ・サルバドールに捧ぐ ⑥クワイエット・ナイト ⑦バップリシティ 2nd:⑧ナウズ・ザ・タイム ⑨オ・コント・ダス・ヌヴェンス(雲の物語) ⑩エンプレイサブル・ユー ⑪ターン・アウト・ザ・スターズ ⑫ブルー・スカイズ ⑬スマイル〜デイ・バイ・デイ Encore:⑭アイ・ゲット・アロング・ウィズアウト・ユー・ヴェリー・ウェル

Personnel 海原純子(vo), 若井優也(p), 楠井五月(b), 海野俊輔(ds)

海原は音楽が秘めた物語をひも解き,ジャズ表現者として未来を明るく照らしている

ジャズ・シンガーの海原純子が4月18日, 銀座"Swing"にて, 素晴らしいピアノ・トリオ(ピアノ若井優也, ベース楠井五月, ドラム海野俊輔)とライヴを開催した。幸運にもオーストラリアからそのライヴを視聴できるのは, 生配信という現代の魔法の恩恵と言えよう。

まず聞こえるのはメンバー同士の信頼感だ。海原を含むミュージシャン全員が, お互いの音を尊重しながら響き合っている。ありがちな「お約束」で進むステージとは異なり, よく練られたセットリストからも, オーディエンス全員に届くようにという心遣いが伝わる。思わず身体がリズムを取ってしまうアップテンポなオープニングは, ロジャース&ハマースタインの名曲〈イット・マイト・アズ・ウェル・ビー・スプリング〉。〈ギヴ・ミー・ザ・シンプル・ライフ〉, 〈ブルー・スカイズ〉, 〈エンプレイサブル・ユー〉から, よりモダンなビル・エバンスのスタンダード〈ターン・アウト・ザ・スターズ〉, マイルス・デイビス〈バップリシティ〉, チャーリー・パーカー〈ゼン・アンド・ナウ〉まで。しかしステージの最高潮は, 海原らしさ溢れる〈スマイル〉からストーダル, ウェストン, カーンの〈デイ・バイ・デイ〉という最後のメドレーだろう。

繰り返しなく1度だけ歌う〈スマイル〉は, 表現者としての深みと造詣に裏打ちされた円熟の境地が余すところなく観客に伝わる名演。海原の歌うバラードには聴く者の胸に迫る感情が込められており, 英語が母国語でないことを忘れさせるほどだ。歌詞とメロディをひとつの音へと紡ぐ能力と, ありのままの声が, 彼女のステージをStorytelling(物語を届ける)にする鍵となっている。聞き手のひとりひとりと心を通わせながら, 同時に会場全体を包む感情を汲みとり結晶させ, straight to the heart(まっすぐ心に響く)な表現の核を作っている。

海原の声には耳に心地よく, 語り掛けるようなスタイルがある。その歌を包むピアニスト若井による軽やかな音の運びと繊細な表現力。トリオの土台を支えるベーシスト楠井が絶妙な質感で刻む流麗なタイム。そこにドラマー海野がぴたりと寄り添い, メンバー全員の音をまとめ上げる。上品な仕上がりを保ちながらも, 本質を捉え自然さを失わない。親友と打ち解けた会話を楽しむようなあたたかさで, 海原は音楽が秘めた物語をひも解き, ジャズ表現者として未来を明るく照らしている。 (イングリッド・ジェームス)

翻訳:中島小百合